

北の自然

第4号

1977年10月25日発行



十万人署名を実現させよう!

とりもどそう 生命をたくす
豊かな自然!

夢よもう一度!

前回一九七二年の札幌冬季オリンピックに前回の記憶が呼びさまされて、冬千億円以上の資金が投ぜられ、各種の競技場、市庁舎、地下鉄、地下街、道路の建設、民間資本によるホテルの建設等で札幌の様相を一変させた。

これらの建設によって土木関連業者はうらおい、オリンピック時の観客によって大手のホテル業者、その他幾つかの業種はオリンピックの恩恵を受けた。オリンピックの公式記録は札幌経済に与えたプラスの効果がいかに多かったかを高らかにうたいあげている。現在では長い不況の中にある。

再誘致を止めよう!

四十万谷吉野

今年一月、あるパーティーで経済団体の有力者が「こう不況でもう一度オリンピックでもやらなければ」

(4) 「交通網の整備が進んだ」というが、地下鉄が出来たことも、道路が何本が出来たこともメリットに数えられていたものであって、オリンピックによって完成の時期が少しは早くなった位である。現在地下鉄は赤字に悩んでいる。地下鉄と入れ換わりに大部分撤去された市電は、今年八年振りに黒字になったという。道路網が整備されたと言っても、昔ながらの車優先で、せっかく整備したと云われる道路も、もはや満杯である。

(5) 調和ある発展を阻害ノ

またオリンピックは札幌市への人口の集中に一層の拍車をかけた。昭和四十七年に百八万人であったものが、五十年には百二十四万人となり、道内人口に占める割合も二十一％から二十三％へと増加し、全国順位も八位から七位へと昇格した。

結局、前回のオリンピックは土木業界をうるおし、大手のホテル、デパートなどもうかり、中小の旅館、商店にそれ程の恩恵があったか疑問である、まして一般市民は教育、福祉にしろ寄せを受け、借金を共同負担させられ、さらに市営交通の赤字もしょい込むこととなった。

札幌再誘致の経過

(1) 賛成陳情花盛り

冒頭のパーティーの一件後、三月に市議会が市長に対し、オリンピックを再誘致する意向はないかとの質問があった。それをきっかけに札幌観光協会(今井道雄会長)を始め経済団体、スポーツ団体、町内会連合会等二十一団体より誘致賛成の陳情(要望)が市及び市議会に提出された。

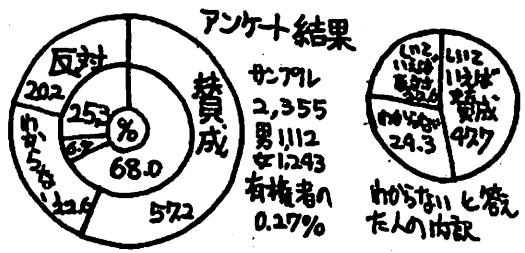
(2) 当連合反対陳情

これに対して五月四日に北大自然保護研究会が反対の要望書を市及び市議会に提出した。六日に当連合も板垣市長と松官市議会議長に反対の要望書を提出した。市長はこれまで誘致賛成の人達とは違って、日程が取れないから会えないと云って

(3) 世論調査実施される

この間、市議会総務委員会でオリンピック再誘致問題について審議を行ってきたが、先に当連合より提出した住民投票を求める陳情が中心となっていた。七月十五日に至り、総務委員会より、住民投票では採択されない見込みであり、このまま不採択にするのも良くないと思うので、アンケート調査でもよいという風に陳情を変えてもらえな

いかにこの要請があった。この要請を受け検討した結果、ここで住民投票に固執しては市民感情が悪くなるのではないかと危惧、目的が市民意向を市に把握させることにあるのだから、条件を付ければアンケートでも良いとの判断に立ち、次の三条を付し陳情の修正に応じた。条件は①反対陳情者も加え実施機関を作る。②賛成、反対陳情者の意見をそのまま載せた公報を作る。③大規模(一万人以上)のアンケートを実施する。④一願だにされず陳情は総務委員会で可決され、さらに本会議において八月四日に世論調査の実施が可決された。三日に市に対してアンケート

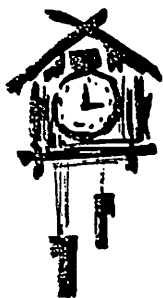


★五輪再誘致の経過

- 3月14日 ○札幌観光協会、再誘致の陳情
(以下、○印は再誘致賛成の陳情・要望)
- 4月18日 ○札幌スキー連盟
- 19日 ○札幌商工会議所
- 27日 ○北海道スケート連盟・北海道アイスホッケー連盟
- 30日 ○札幌市体育連盟・札幌ボスレートボガニング連盟
- 5月2日 ○北海道近代五種バイアスロン連盟・札幌市婦人団体連絡協議会・北海道婦人スポーツ連盟
- 4日 ○北海道経済連合会
- 6日 ○北海道自然保護研究会、反対の要望書
- 9日 ○札幌市大通地区町内連合会
- 12日 ○札幌文化団体協議会・札幌市商店街振興組合連合会
- 13日 ○札幌地区労働、反対の要望
- 14日 ○札幌地区同盟
- 21日 ○札幌市教組、反対の要望
- 22日 ○札幌市代表者会議
- 25日 ○札幌市代表者会議
- 28日 ○北海道自然保護協会、反対の陳情書を提出

- 6月1日 ○当連合、I O C (キラン会長) に反対の手紙発送
- 2日 ○後志地区労働、反対の陳情
- 3日 ○市労働、反対の要望
- 16日 ○総務委員会、恵庭岳等視察
- 18日 ○第7回全国自然保護大会で再誘致反対の大会決議
- 20日 ○北海道開発工業協同組合内開会
- 21日 ○札幌地区労働婦協、反対の陳情
- 7月21日 ○当連合、住民投票の陳情を修正、それに伴う要望書提出
- 22日 ○西岡福住地区町内会等
- 26日 ○8町内連合会・豊平地区青少年育成委員会・豊平区体育指導員連絡協議会
- 27日 ○総務委員会、世論調査を求める陳情採択
- 30日 ○道、恵庭岳の再使用はさせないと表明
- 8月3日 ○当連合、世論調査に関する質問書提出
- 4日 ○市議会、世論調査の実施を議決、中央調査社、世論調査を開始
- 5日 ○地区労働、手稲山の再使用はできないと申し入れ
- 6・7日 ○当連合、街頭ビラ
- 17日 ○世論調査の結果発表
- 27日 ○当連合、世論調査に関する

するよう求める質問書を市に対して提出した。



全会一致で誘致決定。

九月に入り、八日の市議会で、誘致賛成陳情十八件を付帯条件を付けて、全会一致で可決し、反対陳情は取り下げの要請をすると決定した。翌九日、総務委員会の正副委員長が反対陳情提出三団体に対して陳情の取り下げを求めたがともに拒否した。十日に全国自然保護連合が札幌市長に対して反対の要望書を提出した。同日総務委員会は反対陳情を不採択

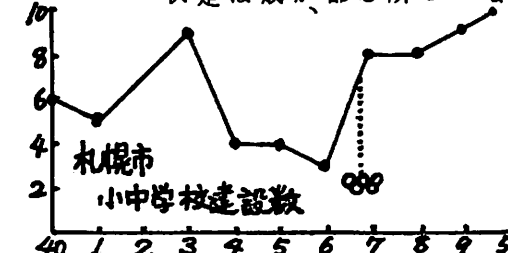
なぜ再誘致に反対するか？

自然破壊を伴う。(1) 恵庭岳をくりかえすな！
前回の恵庭岳の滑降コースはFISの指導により当初の予定を変更し造成されたものである。場所が支笏洞爺国立公園内にあるため、コース部分、ゴール附近の諸施設についてそれぞれ厚生省、環境庁が、競技終了後直ちに撤去、復元することを条件にオリンピック組織委員会に使用を許可した。しかしオリンピック終了後、施設は千歳市に贈与され、千歳市では昭和五十年より「支笏湖自然の村」として利用している。この「支笏湖自然の村」は利用計画もスサシであり、また国立公園としての制限、市街地から遠距離であること等のために、利用者は年々減少の一途をたどっている。コースの復元作業は組織委員会、北海道、札幌市で互に押し付け合い、結局、北海道が実施することとなり、復元作業は行われていないが、厳しい気象条件とコース造成時の表土剥離などによって、生育は悪く、周辺自然植生と一体となるために、なお百年から五百年はかかると思われる。国立公園内では個人に対して厳しい規制をしながら、大規模な破壊は目を

つづり、しかも跡仕末も責任をもつてできない体質に不信の念をいだかざるを得ない。札幌市では次回恵庭岳を使わないと明言しているが、市議会の審議の中でも時折り恵庭岳の名前も出てきており後述の手稲山の例と同様に油断はできない。
(2) ニセコ・富良野でよいのか
現在、滑降コースとして名前の上っているニセコ、富良野にしても、現状では競技水準には合わず、コースの増設、延長が必要である。市長はFISの助言に従うと云っているが、FISの助言に従った結果、

恵庭岳がどうなったかを思い浮ぶ必要がある。またニセコはニセコ・積丹・小樽海岸国立公園内にあり、道の新発展計画(昭和五十三年一六十二年)によれば大規模レクリエーション基地として位置付けられており、滑降コースは巨大観光開発によるニセコ周辺の自然破壊の先兵となるであろう。
(3) 手稲山協定危うし！
手稲山の回転、大回転コースも土地所有会社との復元は反故となり、男子大回転コースのリフトの鉄塔は今年まで雨ざらしとなっていた。コースも荒れるにまかせていた。さらに、オリンピックに使用した施設を道と市が出資した「札幌オリンピック手稲山記念ランド」に運営をまかせている。記念ランドはロープウェイを運行し、スキー客を山頂に上げ、女子大回転コースを滑らせているが、このコースはスキー場として認可されているものではなく、コースの雪の付き方も悪く、負傷者に対する方策すら取れていない。さらに昨午土地所有会社によるスキー場造成が計画された時、手稲山の緑を守る市民会議と市との間で緑化復元の協定が取り交され、また市民会議と会社との間でも、新たな施設を作る時は市民会議の合意を要するとの協定が

なされた。しかし市では次回のオリンピックにも手稲山を使うと云っており、協定発効一年にもならないうちに、このような発言をすることに市の自然保護に対する姿勢がうかがわれる。市議会で市長は市民会議の了承を取り付けたいと云っていたが、市民会議との話し合いは議員に促されてしぶしぶ会った一回のみで、その後、何らの話し合いもしないまま誘致作業を進めている。
距離コース跡地については復元の約束がなかったが、前回使われた所は、標識、コース共放置され荒れるにまかせている。元のコースは大部分、現在、使用できる状況にないが、再使用となれば新たなコースを造成しなければならず、またこの地域は羊ヶ丘自然愛好会と市との間の協定により新たな開発行為はできない状況となっている。
(4) 札幌市何を考えているか
以上、前回のオリンピック時のコースについて述べてきたが、市や組織委員会の無責任、自然保護観の欠落は今だに続いている。市長は「自然を大事にしている」といくら云った所で手稲山の協定を踏みかじる態度からはわかに信じられない。私達は次回のオリンピックが再誘致されたとしても、いくら自然破壊



市民生活を圧迫する。
先に述べたが、オリンピックは市民生活を圧迫した。表面的には札幌市は近代都市としての装を新たに増したが、市内の緑地公園は増えず、スポーツ振興をとなえながら、朝野球をするのに順番待ちに何時間も行列しなければならぬ状況は続いている。学校の建設数の減少、人口の集中と道内の過疎過密の進行と、オリンピックは調和ある北海道の発展をさまたげた一つの原因を云わざるを得ない。次回のオリンピックは質素に行くと云っているが、この物価高のあり、前回より経費を少なくすることが可能だろうか。賛成陳情の多くは経済発展をとなえてい

声明とコース明確化の質問書提出

〈9月〉

5日 市長、手稲山の再使用につき、地区労に協力要請

8日 総務委員会、誘致賛成の陳情を採択

10日 総務委員会、反対陳情を不採択、本会議にて誘致を決定、全国自然保護連合の反対要望書を提出

13日 環境庁長官に反対要請書、ニセコ・羊蹄の自然を守る会、小樽生物保護研究会、ニセコ誘致に反対の陳情書を提出

14日 当連合、JOCに反対要請書、JOC、再誘致決定

24日 道自然保護協会、再度、反対要望書

26日 旭川大雪の自然を守る会、富良野市に富良野使用反対の要望書

28日 右団体、札幌市に同趣旨の要望書

10月 閣議で正式決定

14日 招致委員会が発足

15日 当連合、署名活動スタート (札幌三越前で街頭署名)



リンピックに頼らなければ、行政も経済界も何もできないならば、当事者としての能力を疑わざるを得ない。

◇運動の反省点

今回のオリンピック再誘致反対運動の最も反省すべき点は住民投票の陳情をアンケート調査でも良いとした点であろう。その時点でどのような方法をあれ市民の意向をつかむことを市に対してやらせることも意義があると考えたのであるが、結果的には賛成側を勇気付けることとなった。当初、要望事項を出せば、何とかなるのではないかと考えた情勢分析の甘さ、市の対応について行けなかった組織力の弱さは、今後の反省点とすべきである。

◇今後の活動

札幌市ではオリンピック再誘致に對して作業を進めているが、これまでに立候補するのが札幌市のみと見られていたのが、スウェーデンも立候補を表明した。当連合としては代表者会議の決定に基づき、反対の署名活動に取り組み、代表を来年五月アテネに派遣する予定である。また、その時々に出た問題についても対処してゆく予定である。

10月15日 10万人署名運動 始まる

14日、再誘致が閣議で了解された。15日午前には、招致委員会が発足した。

札幌の三越前に集まったのは連合事務局員など約三十人。

午後二時、札幌大雪の自然を守る会の加藤氏の第一声がマイクを通して札幌の街にひびいた。

三月以来半年にわたって、ほとんど毎週一回以上は新聞紙面をにぎわしてきただけあってきただけあって市民の反応はすくなく表われた。

今までの署名運動とは異なる点として、署名してくれる人が積極的であるということが挙げられる。特に、中年の主婦が「あたし反対なんだ」と言って署名していく例が多かった。また、若い人もかなり署名に応じていた。

前回のアンケートでは反対少数という結果が出された。今回の街頭署名では、賛成市民の声はほとんど聞かれなかったが、反対している市民



にはその姿勢に確固たる自信のようなものが感じられた。

この署名は、I O Cに提出することになっている。札幌市、道、国が再誘致に反対する市民に背を向けた今、札幌市のもつ問題点を、市民の声を正しく反映させようとしないう態度をふくめて、I O Cに直接訴える必要があるのではないかと。

私たちは、小教意見(四人に一人はいるのだが)として切りすてられた再誘致に反対する市民の力とするために、今後もさらに多くの署名を集め、オリンピック返上を努力していかねければならない。(T・N)

◇盗伐で一時しのぎ

昔、馬車のダルマっていうと、エンジンでなきゃだめなんです。あとになつて、まがいもの使いますけどね。コールド塗るから分らないんですよ、向の木だか。エンジンなら一尺いくらでたいした高値で売れるんです。大じかけの盗伐やたらすぐナワかけられるから、エンジンを一本か二本馬で引張って行くんです。

それも無くなると、そこに居れんわけです。食えないから出るしかない。九月末になつても燕麦青々してるんです。日照がないからですね。そのうちに霜が来てそれで終わりです。そういう所に沢山入れているんです。

◇ひどい所に戦後開拓が
ところが戦後開拓を見ても、私もびっくりする。狩場山というニセコの南の山があります。そこに、ゴールデンウィークに登りに行ったことがあります。

賀老の台地といって、皆さんも存知の方あるでしょう。そこは、五月のゴールデンウィークの時ですね、雪がまだ一メートルもあるんですよ。その雪の上にケルンみたいなチョコッ、チョコッと出ている。私、百姓やっているからすぐ分かるんです。邪魔な石を捨てて、ケルン積んだんだなって。だから、かつてそこに開拓農民を入れた跡なんです。五月の上旬でまだ雪が一メートルもある時に、百姓やれといつてできませんか。できるわけないでしょう。

◇層雲峡の奥までも
それから層雲峡に行つたんです。清

川というところがあります。今、営林署の苗圃があります。

それで、私、大雪描くのね、困るんですよ。描くところがないんですよ。丁度良いところが、層雲峡の車の道路じゃあ近すぎて困る。どっかないかと思つたら、その反対側の厩の上にあがればいいことが、あそこに行つて分つた。

それから、苗圃に行つたら、道ありますよ。どうしてそういう道あるんだって聞いたら、開拓農家入れてあるんだって返事。一寸眼の前の厩の上にあがるのに、四キロ以上し

原野の昔ばなし

その三、坂本直行



ろからじゃないと上れないんです。そういう所に百姓入れているんです。そして、行ってみたら百姓おりました。五月の中頃です。やってないんですよ。お前らサボってるのかって言つたら、いや、ここではメシ食えないから、道庁でどっか十把ひとからけていい所へ連れてってくれるっていうから休業してるんだ。私もびっくりしました。そういう所に入れてるんですね。

それで、開拓百万町歩とかいって、たいした張り切つたんですけどね。戦後開拓なんてそんなもんです。暑寒別あたりの無水地帯のあんを所に入れてる。

それから、知床五湖に行く途中をご覧なさい。あそこも無水地帯です。落葉も盆栽くらいにしかならないところに戦後開拓に入つた。あんなところで、どうして百姓やれるんですか。私、戦前開拓ですけど、戦後開拓も同じです。

◇別海村に行つて
それから別海村に行つたんです。あそこ海々ずつと歩いてゆきますとね、ポツポツと戦後開拓が入っているんです。ところが、ちょうど、ひどいにか雨が来たんで、私一寸と雨やどりに入つたんです。入るわけにゆかんですからね。軒下で立っていたらね、おや

それが自転車で走ってきたんです。まあお前そんな所に立たん入りなさい、ていうわけで入つたんです。それから火たいてくれたから、あたっていろいろ話をしたんです。

「やー、どうも牛一頭やられたらしい」と、こう言うんです。

「やられたってどうして。」って聞いたら、「やー夕べ山においたままにしていたら、どうも熊に食われたらしい。」「あんたあれ乳牛でしょ。」って言つたら「そうだ」という。

「乳牛夜畜舎に入れない百姓なんて、こりやめた方がいいんでないか」と言つたら、「おっしやる通りだ」

「どうしてそんなことしてる」「いそがしくて...」「いそがしくて...」

◇牛よりアキアジの百姓
話聞いたら違うんですよ。アキアジとってるんですよ。半農半漁ってやつです。これはもちろんカン札もってやってるんです。

ああいう海岸ぶちの殺風景な草原でなんにも畑がない所で百姓やってるんです。戦後開拓っていうから、私不思議でしょうがなかった。百姓のことなら私一目見たら何でもわかるつもりでいたけど、あれだけはわからなかった。どうして牛夜畜舎に入れないかと思ったら、夜アキアジ取りに急がしくて、牛どころではないんですよ。

話聞いていると、一ヶ月何千万でとっているんですよ。これじゃね、もうシャッポですね。我々は牛一頭熊にこちそうしたって一向にかまわんですよ頭かくぐらいい。だから運よくそういう所に入つた人はいいんですよ。一本二千元、三千元で売れるやつが、一晩で何千本で取れるんですから。こりや、牛なんて買うのがバカで、やめればいいんですよ。(つづく)



活動日誌 6~9月 五輪関係を除く

△六月
二〇日

札幌環状線
円山地区問題
について、市
と住民の話し
合いに出席

△七月
一二日

真駒内桜山
短絡道路問題
について、南
区役所と話し
合い(協会から)

一九日

朝里岳スキ
場について
札幌リゾート
公社と話し合
い(札幌周辺
から)

△八月
三日

旭岳パラポ
ラントナにつ
いて道へ要望
書提出(旭川
大雪守る会か
ら)

二二日

第11回代表
者会議(於・
札幌)大林園
反対山形現地
集会(2日ま
で)

二九日

旭岳パラポ
ラアントナに
ついて対道交
渉(旭川・大
雪守る会から)

△九月
三日

道路問題を
考えるシンポ
ジウム(協会
主催、於札幌)

冬季オリンピックの 再誘致に反対の 署名に協力を!

新聞等で御存知のとうり、10月15日の札幌での街頭署名を皮切りに、本格的に署名運動を開始しました。(P6の記事参照)

この署名は来年5月、I O Cに提出する予定です。札幌市民だけにかぎらず、広く全道全国の皆様の協力をお願いします。

(各団体と賛助会員の皆様、そして全国連合加盟団体の皆様には、この通信に署名用紙を同封しましたので、ぜひ協力を願います。)

(連絡先・送り先)

〒061-001 札幌市豊平区羊ヶ丘一北農試内四十
万谷気付 北海道自然保護団体連合
TEL (011-851-9141) 内線268
振替 小樽四〇七一

編集長記

○樹木の緑が色づき始めたかと思えば、いつのまにか、ストロップが欠かせない季節になってきた。早いものである。窓から見える手稲山の山頂は、すでにうっすらと雪化粧。これから本格的な冬へと向かう。今年、その手稲山に新たなスキー場がオープンする。

観光産業による自然破壊は休む所を知らない。しかし、冬季五輪のための手稲山の再使用は絶対許されない!

○通信の発行が大幅に遅れて、各団体賛助会員の皆様には大変御心配をおかけしました。編集部一同、深くおわび申し上げます。

○10月22、23日は、函館で第5回目のシンポジウムが行なわれました。次号で特集する予定ですのでお楽しみに!(さわ こうじ)

一九七七年十月二十五日発行
編集発行 北海道自然保護団体連合
(事務所) 札幌市北区北十一条西一
丁目 北海道自然保護センター内
連絡先(〇二一) 八五一一九一四一
内線二六八(事務局長 四十万谷)
三四(代表 山本正)
印 刷 北海道大学生協プリント部